
2000年代 医療戦争

赤城龍哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2000年代 医療戦争

【Nコード】

N8295P

【作者名】

赤城龍哉

【あらすじ】

このプロローグが全ての幕開けであり、ここから思い切り時間をかけて

みなさんにこの物語を理解してほしいとおもいます。

騙されたと思って読んでください！

まだ10代のガキが書いた渾身の一作、是非！

プロローグ（前書き）

この「小説家になろう」で初めての投稿です。
自信があるので、是非読んでいって下さい！

プロローグ

プロローグ

「ねえ、私、もう限界よ！ あの子を殺してしまいましょー！」

「たしかに、あの子は気味が悪いけど」

日本に住むこの夫婦には、子供がいた。

しかしその子は夜な夜な外を出歩いたり、一人でぶつぶつなにかを言っていたりする。

「こないだも近所の赤ちゃんに変なことしてたし。きっと、そのほうが世間のためよ！」

母親の怒声を聞いても気乗りしない父親に、「私一人でもやるわ。あなたは見ていてちょうだい。」

それでも、気が乗らない父親だったが、母親はそんな父親に目もくれず、薬棚から奇妙な粉をとりだし、

これから息子に食べさせるであろう食事にふりかけていた。

薬まで用意していたという母親の周到さに一瞬恐怖した父親だったが、なにもいわなかった。

午後6時、いつもの時間に食卓に来た息子を出迎えるなど、無かった。

これがいつも寂しく、いつも溜息が漏れるのだが、今日はそれはなかった。

そりゃそうか。なにせ、いまから実の母親に殺されるのだから。

自分でおもって、笑ってしまった。どうしてこんなに落ち着いているのだろうか？

これから人が、ましてや実の息子を殺すというのに。

そして、母親が毒入りの食事ももってくる。

スプーンを手に取り、口に運んだ。

とはいかなかった。

「なんでこのごはんどくがはいつているの？ねえ、なんで？」

ぞくつとした。このしゃべり方、じゃない！なんでこいつ、毒入りだつて知ってたんだ？

動揺が隠せない。それは母親もおなじだった。

「ふーん。ぼくをころすんだ。でも、さきにぼくがころしてあげよつかな。」

え？

気がつくと、部屋に息子はいない。いったい、なにがどうして、、、目を凝らすと、部屋は血で真っ赤に染まり、自分の横には大量の血が流れている母親の姿。

「お前が正しかったよ。あいつは殺すべきだった。それこそ生まれたときに。」

「あいつ、俺たちの息子、真紅を」
ガハッ、と父親は倒れた。

この事件は、未解決で終わる怪事件と共に、2000年代最悪の惨劇の幕開けとなる。

プロローグ（後書き）

前書きでいったように、僕はこの作品がここでの初投稿です。

自分の実力もわかってないので、ダメだしでもいいので、感想をください。

佐倉 道雄（前書き）

プロローグ、読んで頂けたでしょうか？

基本意味不明だともいますが、まあ謎はあるけど推理小説ではないので、その辺スルーで！

まだご覧になってない人もどうぞ！

佐倉 道雄

「これにて、恒例会議を終わる！解散！」

班長の号令で皆ゾロゾロと部屋をでていく。

「道雄、飯行こうぜ」

「幸助」

こいつの名前は柴崎幸助。医療解析班の同期で、高班員。

「なんだー、ポケツとして。まさか寝てたのか？大事な恒例会議に」

「んなわきゃねーだろ。ほれ、いくぞ。」

ぶつきらぼうに答えた俺をみて、納得した表情を浮かべる幸助。

新手のケンカの売り方か？これ

医療解析班というのは、20年前に作られたある細菌の対策組織として作られたものだ。

ま、どうかとおもうけどな。

細菌とは、30年前に突如発生したもので、アメリカ大陸に上陸してわずか半年で、世界を巻き込み、計五百万人の人々が命を落したのだ。

そこから、6カ国が対策を立てた。

日本は初め指をくわえてみていたが、死者がそれが上陸して、死者一万人を超えたあたりで急にあせり、この組織がつくられた。

とはいっても、この組織には序列があり、幸助のような高班員以上は国から色んな援助をつけているが、俺のような平班員にはたいした給料もなく、大体は医者になりきれない半端者のあつまりだ。

俺もその中の一人だがな

だから、高班員のやつらは頭でつかちのエリートが多いのだが、幸助はちがうのだ。

特別推薦枠。通常高班員になるには、大学助教以上から国家試験に合格しなければならぬのを、

こいつは医大から直で入ってきた本物の天才だ。

まあ、こいつとの出会いは今じゃなくていいだろ。

と、こいつの顔を見てたら、

「なんだよ人の顔じつとみて」

ん、なんだかみつめていたようだ。

「なんでもねえよ」

こいつといるのはおもしろいし、この職場に不満もないから、この生活をくずしたくなく、

平和にこの細菌の解決策をだれかが出すことを待っている日々だった。

ピンポンパンポン、班員ナンバー593、佐倉道雄、至急班長室まできてください。

このアナウンスが、俺の人生を180度変えることになるとは、誰も思っていなかっただろう。

佐倉 道雄（後書き）

さて、どうだったでしょう？正直、この話とプロローグは関係ありません。

でも、最後の最後につながるとおもいますので、おたのしみに。

まあ、ある程度執筆にもなれました。ここからはもっともっと皆さんを楽しませられるように精進していきたいと思う所存です。

さて、次回は一度道雄の身の上話を挟みたいとおもいます。

さて、みなさん。どんどん感想の方、かきこんでください！

ではまた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8295p/>

2000年代 医療戦争

2011年1月3日23時44分発行